

策定プロセス訪問調査事例

奈良県大和郡山市

母子保健計画策定プロセスに関する調査票

市町村名 (奈良県大和郡山市)

記載担当者名 ()

	市 町 村		保健所の関与
	市町村行政内部の作業	住民参加	
<p>【Ⅰ】事例の概要</p> <p>◆事例検討に当たって理解しておくべき背景</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口、地理的条件、社会資源等 市町村の組織体性等 住民組織の成熟度等 県の取り組みと保健所の特徴 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 人口96,322 (H9.1.1) この5年間不変。 奈良県北西部を占める奈良盆地の北部に位置する。JR、私鉄で大阪まで約30分、奈良市まで5分と交通至便。 高齢化、3世代世帯の減少、核家族の増加、出生率の低下により、母親同士の交流の場が少なく、ふれあいの場が必要。 生活環境部から福祉保健部に平成8年10月機構改革。保健婦が成人、在宅、母子の3グループで活動。 2005年を目標年度として「こころ豊かな文化の香り高き町 大和郡山市」づくりの実現に各課で計画を推進中。 積極的なコミュニティ機能の形成、関連するサークル団体の形成を各課がすすめている。 保健予防係長は女性いきいきしあわせプランを作成した経験あり。 平成7年に保健センター開設。子育て教室を地域で行い、そのOB会の場づくりを進めている。 		<ul style="list-style-type: none"> 平成8年度まで3歳児検診を市保健センターを使って保健所が実施していた。 県母子保健推進会議において管内の指標の整理や事業評価を行い、システムの確立を目指す。 母子保健事業担当者会議で県の推進会議を受けて情報交換や計画の進捗状況の評価 保健所保健福祉サービス調整推進会議で個別事例のトータルケアを実施
<p>【Ⅱ】計画策定の準備</p> <p>◆計画策定の目的、策定の手法等の</p> <p>合意形成</p> <p>①合意形成のキーマン</p> <p>②範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> 首長、財政、他課、議会、住民組織、医師会等 <p>③合意形成の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別調整、会議、研修・勉強会等 <p>④策定体制の有無、構成、運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保健予防係長が関係各課に計画策定に関する協力依頼を個別調整で実施。 保健センター母子保健係が中心となって運営 <p>(問題点・課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係各課との個別調整に時間を要した。 母子保健係を中心とした運営を行ったが、メンバーに幅を持たせた方がよかった 計画策定の予算が確保できていれば、統計処理などについて専門機関を導入して専門性を高められたのでは。事前の統計学の学習が必要であった。 県から委譲される事業の準備と平行しての計画策定で、時間に追われた。 		<ul style="list-style-type: none"> 平成8年6月母子保健計画策定と母子保健事業移譲についての説明会開催(県) 平成8年10月母子保健計画担当者会議で進捗状況の調査 平成8年11月研修会で、他府県や他市町村の計画の紹介 平成8年12月保健所と管内市町村の連絡会議、研修5回開催 平成9年2月保健所と管内市町村で岐阜県各務原市へ視察
<p>◆その他、計画策定のための環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 予算 人的体制 時間の確保 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 係長が計画策定に必要な時間の確保のため所内業務調整を行った。 係長が時間外対応について人事課と調整を行った。 予算がなく、母子保健計画の冊子印刷は翌年度に行った。 		
<p>【Ⅲ】地域の実態、住民ニーズの把握</p> <p>①地域の実態、住民ニーズ把握の視点の整理と共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> キーマン、範囲、手法 検討体制(【Ⅱ】と同様) <p>②具体の手法</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存資料の活用 住民等との対話 	<ul style="list-style-type: none"> 健診や教室などの事業の中で行ったアンケートをもとに、住民ニーズの把握を行った。 統計資料の分析と文献調査により地域の実態を把握 県、保健所に人口動態や広域的な母子保健情報について問い合わせ 係長が各担当機関に情報提供を依頼 		<ul style="list-style-type: none"> 他府県での母子保健計画の提示

<p>・アンケート調査</p> <p>【IV】計画（施策）化 ① 具体の対応方針に関する検討協議と関係者の合意形成</p> <p>② 内容 ・ 具体の目標、数値目標 ・ 評価指標</p>	<p>・ 係長が個別調整で関係各機関に合意形成を行った。</p> <p>・ 大和郡山市母子保健計画策定懇話会を開催</p> <p>4つの基本目標を策定し、5か年計画とした。</p> <p>1) 地域で支え合う母子保健を目指す 2) 「こころ」の健康を重視した感性豊かな人づくりを目指す 3) 個人の健康状態に応じた適切な医療の確保を目指す 4) 関係機関との連携をはかり母子保健の向上を目指す</p> <p>(課題・問題点)</p> <p>・ 事業を実施しながら、その中でアンケートを中心とした住民のニーズ把握を行ったので、計画策定のための住民との対話ができなかった。 ・ 統計が活用できず、数値目標の設定ができなかった。 ・ 1歳6ヶ月児健診で対象者の全数把握を行う。</p>		<p>・ 保健所の母子保健担当者に計画の進行状況の確認と助言をしてもらう</p>
<p>【V】計画の具体化 ・ 9年度予算への反映</p> <p>・ 計画の進行管理 組織体制</p> <p>・ 住民、関係機関への周知等</p>	<p>・ 県からの移譲分を除いて平成9年度予算として反映した部分はないが、事業の実施計画は計画の基本目標に沿ったかたちで立案実施している。</p> <p>・ 今後、住民のニーズと計画のずれを調査して、より住民ニーズに即した計画にしていく</p> <p>・ 進行管理は母子保健係が中心となって見直しを行う</p> <p>・ 関係機関へ母子保健計画を配布 ・ 市議会の委員会に提出</p>		<p>・ 母子保健事業担当者会議で進捗状況を管理</p>
<p>【VI】全体を通じた事例のまとめ (キーワードも記入)</p>	<p>・ 事業以外で住民のニーズを聞く機会がとれなかったが、既存資料から現状と課題の分析を行って計画を作成した。</p> <p>・ 保健予防係長と保健婦の担当グループが一体となって計画づくりを行った。</p> <p>・ 計画策定の過程で、担当者の意識統一と改革ができ、市の中での自分たちの役割など事業に取り組みにあたっての視野が広がった。</p> <p>・ 統計処理の方法や考え方などの専門的学習の必要を実感した。機会を作ってほしい。</p> <p>・ 計画を立てる上で保健所との直接の関わりは少なかった。</p> <p>・ 国勢調査の結果が出る調査から2年後ぐらいに計画策定を実施するのが良いのではないかと考える。</p>		